

# あいち病害虫情報 最新情報

令和4年8月17日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

名古屋地方気象台8月11日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込みです。また、前線や湿った空気の影響を受ける時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か少ない見込みです。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、適期防除を心がけましょう。作業は朝夕の涼しい時間帯に行くなど、健康管理に留意しましょう。

## イネ白葉枯病

尾張地方の一部地域でイネ白葉枯病の発生を確認しています。名古屋地方気象台8月11日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の降水量はほぼ平年並の見込みですが、本病は、大雨や強風によって発生が助長されるため、台風や局所的な大雨には注意が必要です。浸冠水しやすい水田では、用排水路の整備を行いましょ。

## イネいもち病

8月上旬の巡回調査において、葉いもち、穂いもちともに発生量は平年並でした。本病は降雨により発生が助長されるおそれがあります。降雨の後には発生状況に注意し、適宜防除を行いましょ。

## トビイロウンカ

8月上旬に実施した巡回調査において、トビイロウンカの発生は確認されませんでした。8月上旬から中旬に実施した臨時調査において、水田でトビイロウンカ成虫が捕獲されました。また、予察灯においても誘殺が確認されました。詳細は本日発表の「ウンカ類情報第4号」を参照してください。

なお、トビイロウンカに関しては、今後も引き続き情報を発出していきますので、本県が発表する情報に注意してください。

## 斑点米カメムシ類は引き続き多い

8月上旬の巡回調査における水田内のすくい取り調査において、過去10年間で最も多い状況です。水田内すくい取り調査では、イネカメムシやミナミアオカメムシが多く捕獲されています。畦畔のすくい取り調査における捕獲数及び県内各地の予察灯における誘殺数は平年並です。

これから出穂期を迎えるほ場では、畦畔やほ場内を観察するとともに、発生状況に応じて適宜防除しましょ。防除対策については、8月2日発表の「斑点米カメムシ類情報第2号」及び7月15日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第3号」を参考にしてください。

## ダイズのシロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ

8月上旬調査において、シロイチモジヨトウの寄生は確認されていませんが、本種は近年増加傾向のため、発生状況に注意が必要です。幼虫の発生を確認したら速やかに防除しましょ。ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数は平年並です。

8月上旬調査において、オオタバコガの寄生株率はやや少ない状況です。ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数は平年並です。オオタバコガは、新葉を中心に食害するため、新葉が盛んに展開する開花期までの防除が重要です。は種時期が遅い作型は特に注意しましょ。

8月上旬調査において、ハスモンヨトウの寄生は確認されていません。ダイズほ場に設

置したフェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数は、長久手市及び安城市でやや多い状況です。その他の地域では平年並です。今後、高温が予想されることから、発生量が増えるおそれがありますので、ほ場内を観察し、幼虫の発生やハスモンヨトウによる白変葉を確認したら速やかに防除をしましょう。

## ツマジロクサヨトウ

愛知県農業総合試験場内に設置したフェロモントラップにおいて、8月第1半旬に今年度初めて誘殺が確認されました。本種は国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見つかります。特に生育初期の幼虫による加害は被害が大きいため、ほ場を見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。

## 果樹の病害

ナシ黒星病の発生ほ場では、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

7月下旬の巡回調査において、ブドウベと病の発病葉率は平年並ですが、発病葉率が高いほ場が確認されています。そのため、薬剤防除や発病葉をほ場外に持ち出すなど防除を徹底しましょう。

## 果樹の害虫

ナシヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺数は、犬山市及び西尾市に設置したトラップでやや多い状況です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除をしましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘殺数は全体的に平年並です。しかし、豊橋市に設置した予察灯におけるチャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの誘殺数が、8月に入り急増していますので、ほ場での発生状況に注意してください。

なお、7月下旬に実施したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘（吸汁した跡）数による離脱時期予測によれば、早いところでは既にヒノキ林から離脱し、成虫の果樹園への飛来が始まっていると考えられます。県内各地におけるヒノキ林からの離脱時期等は、8月2日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参照してください。また、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので注意してください。

カンキツほ場に設置したチャノキイロアザミウマの粘着トラップにおける誘殺数は、蒲郡市のトラップでは、6月から7月にかけて多い状況でしたが、現在は平年並です。南知多町のトラップでは、ほぼ平年並で推移しています。最新の気象データから予測した成虫発生ピークは表2のとおりです。成虫発生ピークが防除適期なので、表2を参考に防除を実施しましょう。

表2 チャノキイロアザミウマの成虫発生ピーク予測日（8月17日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第5世代	8/10	8/10	8/5	8/7	8/11	8/12	8/10	8/9	8/15	8/9	第3世代	7/28
第6世代	8/27	8/27	8/22	8/25	8/29	8/29	8/27	8/28	9/3	8/26	第4世代	8/18
第7世代	9/15	9/15	9/8	9/13	9/17	9/18	9/14	9/17	9/24	9/14	第5世代	9/10

各地のアメダス平均気温から予測。8月16日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

## 野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、田原市のキャベツほ場でやや多い状況です。ほ場や育苗ほでの発生に注意しましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊川市のハクサイほ場及び田原市のキャベツほ場でやや多い状況です。ほ場や育苗ほをよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、稲沢市及び田原市のキャベツほ場、碧南市のニンジンほ場で多い状況です。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状

況を参考に、ほ場や育苗ほでの発生に注意して適宜防除しましょう。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。

育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の飛来を防ぎましょう。

### **イチゴ炭疽病に注意！**

7月下旬の巡回調査でイチゴ炭疽病の発生量が多い状況でした。今後も気温が高いと予想されており、注意が必要です。発生を確認したら、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は病徴が無くても同様に処分しましょう。親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナー、子株も処分しましょう。8月2日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第4号」も参考にしてください。

### **イチゴのハダニ類**

7月下旬の巡回調査で育苗ほでのハダニ類の発生量が多い地域があります。本ほでのハダニ類を抑えるには、育苗段階での防除を徹底することが重要です。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、定植直前には必ず防除を実施しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

### **トマトのコナジラミ類**

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意して、早期防除に努めましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ウェブページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室 TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820
---